

「心を耕す」とは

研究発表会に参加すると、紀要に「生徒の心を耕す」という言葉がよく目につきます。道徳教育などの研究校では先生方は呪文のように唱えています。しかし、実際の教育活動（公開授業等）で具体的な場面を見せてもらったことがあまりありません。

本校において、もしかしたらこのことが「自然に心を耕す」ことなのかなと思うことがありましたので紙芝居でご紹介します。

第1幕



本校には左のように廊下の柱に沿って電気配線のパイプが縦に取り付けられています。このパイプはちょうど握れるほどに壁との間に隙間があるためか、よく引っ張られて曲がることがあります。その度に教頭先生が留め具の修理に工具を持って奔走します。

先日もこのパイプが曲げられ、上部の留め具がはずれていました。

第2幕

私と教頭先生とで、握ることができないように壁との隙間を無くして留め具でしめるようにしようかと考えましたが、とりあえず右のように「さわらないで下さい」という張り紙で訴えることにしました。



第3幕

私にも教頭先生にも気づかないことをしてくれた方がいます。

左の写真をご覧ください。何と曲がった配線パイプを使って生け花をしてくれました。ここには「パイプを曲げるな」とか「さわらない」というメッセージは全くありません。でも生徒はこれを力づくで引っ張ることは決してありません。恥ずかしながら、私は今になって教育の本当の姿というのはこういうことなのかも知れないと感じました。研究発表会で声高に言うのも良いですが、

もしかしたら本当の「心を耕す」とはこのような心配りを言うのかも知れません。

私は本校にこんなすばらしい校務員がいることを誇りに思います。

